

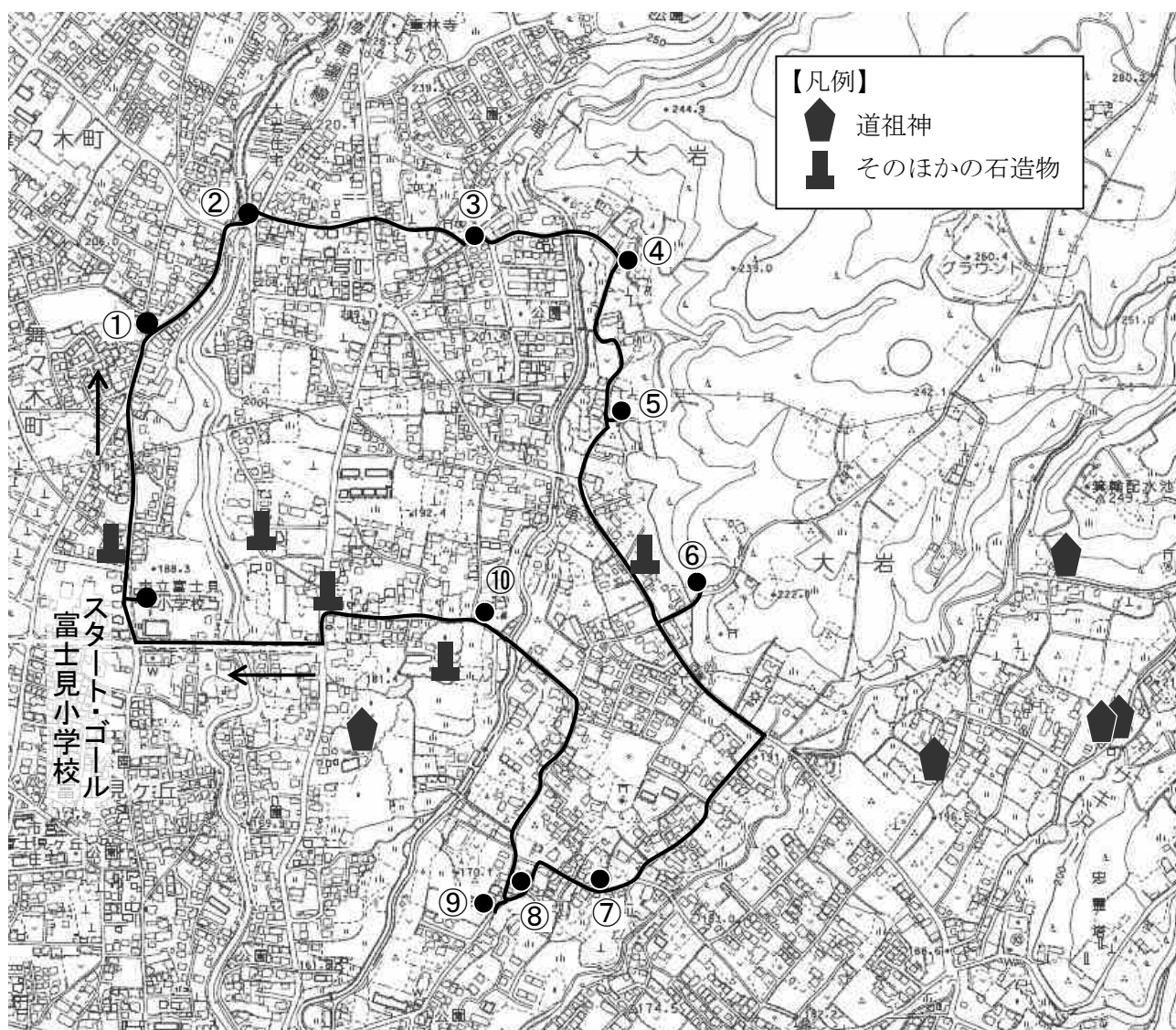
平成25年5月18日(土)
第1回歩く博物館探索会(大岩地区)

ふじのみやの道祖神展関連企画

大岩地区の道祖神をめぐる

【コース】

富士見小学校 → ①富士登山道の道しるべ → ②賽の河原 → ③子安神社と元大岩の道祖神
→ ④辰野北の道祖神 → ⑤辰野南の道祖神 → ⑥丸の上の道祖神 → ⑦丸の東の道祖神
→ ⑧丸の西の道祖神 → ⑨丸ヶ谷戸遺跡 → ⑩時田東の道祖神 → 富士見小学校



【問い合わせ先】

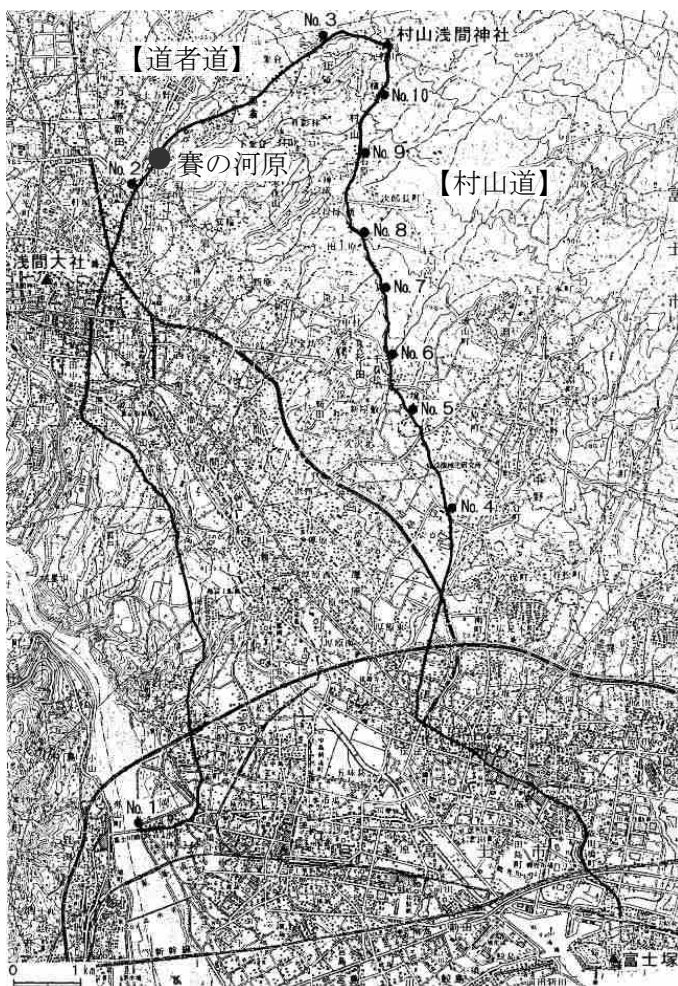
富士宮市教育委員会 富士山文化課
電話:0544-22-1187

①富士登山道の道しるべ

江戸時代、東海道筋からの富士登山は、大宮の浅間神社（現富士山本宮浅間神社）を経てから村山へ向い、山頂を目指すことが一般的だった。

ここは大宮から山宮浅間神社へ向う道（御神幸道）と同じく大宮から村山へ向う道（道者道）の分岐点であり、道しるべが残されている。道しるべは正面に「右富士山道」と刻まれおり、富士登山道（道者道）を案内している。この道しるべは寛政元年（1789）に大宮町の住民によって建てられた。道者道の道筋には、他にも栗倉に「富士山道」と刻まれた道しるべがあったが、現在は村山浅間神社境内に移されている。

また、富士登山には東海道吉原宿から直接村山へ向う近道も使われた。この道筋には「村山道」と刻まれた道しるべが7基残されている。



右) 村山への道推定図

②賽の河原

①の道しるべから右に道者道を進み、弓沢川を渡った場所は「賽の河原」と呼ばれている。ここには6体の地蔵菩薩像（六地蔵）や石碑などの石造物が祀られている。

古くから人々に広く信仰された地蔵菩薩は、六道の衆生を救う仏とされ、特に地獄の賽の河原での救済が知られる。中世には六観音に準えて六地蔵信仰が生じ、六体の地蔵菩薩像を作ることも多く行われた。市内ではここ「賽の河原」の他にも、先照寺（大中里）や重林寺（大岩）などにも六地蔵が祀られている。

また、この場所は道者道の道筋にあたり、富士登山の供養塔が建てられている。

賽の河原の石造物

	種 類	造 立 年	造 立 者
1	富士登山満願供養塔	弘化3年(1846)	大和国(奈良県)の行者祐道・大宮町佐野・大岩井出氏
2	地蔵大菩薩碑	慶応2年(1866)	大岩村
3	六地蔵		
4	石経供養塔	文化4年(1807)	大宮町池谷忠蔵・大岩村佐野氏

道祖神

道祖神とは、塞(境)の神、行路安全の神、子孫繁栄の神など様々に信仰され、集落の境や辻合に祀られることが多い。

富士宮市は道祖神が数多く祀られている地域であり、市内には 398 基確認される。道祖神をその形から、像を 2 体刻む双体道祖神、1 体刻む単体道祖神、「道祖神」の文字を刻む文字道祖神、加工しない石そのものを祀る自然石道祖神に分類すると、市内では双体道祖神が最も多い。

また、市内では、1 月 14 日周辺に行われるどんど焼きは道祖神の祭りとされ、道祖神の近くで行う所も多い。なかには道祖神を火の中に投げ入れる場所もあり、火で焼かれて損傷したと思われる道祖神も散見する。これは 1 年間集落を疫病から守った道祖神をどんど焼きの神聖な火で浄化し、その機能を回復させる意味があると考えられている。

富士宮市内地域別・種類別道祖神数一覧

種類 地域	道 祖 神						祭祀場
	双体	文字	単体	題目道祖神	自然石	合計	
上井出	7	4	0	0	2	13	13
白糸	13	3	0	0	0	16	14
上野	35	20	0	0	2	57	45
北山	38	12	0	0	13	63	52
富丘	30	17	1	2	1	51	42
大宮	25	29	1	0	3	58	55
富士根	50	27	1	0	6	84	69
稲子	2	1	0	0	0	3	3
柚野	13	14	0	0	0	27	24
芝富	4	20	0	0	2	26	25
内房	0	0	0	0	0	0	0
合計	217	147	3	2	29	398	342

③子安神社と元大岩の道祖神 (右側:No.279/双体・持物(笏・笏)/文政 5 年(1822)、左側:No.278/双体・合掌/破損甚だし * 凡例:道祖神 No/道祖神の種類(双体、単体、文字、自然石・合掌、持物等)/造立年・特記)

子安神社は、『駿河志料』には「大岩御前社」とあり、犬飼明神または子安明神を祀るという。現在は木花開那姫命を祀っている。また、本殿裏手に大きな岩があり、「大岩」の地名の由来とされる。

子安神社前には道祖神が 2 体並んでいる。向って左側のもの (No. 278) は破損が激しい。これは道祖神をどんど焼きの火の中に入れていたためと思われる。元大岩では子安神社の坂の下でどんど焼きを行っており、かつてはどんど焼きの度に道祖神を運んで火に入れていたという。しかし運ぶことが大変になり、今では道祖神を焼かなくなったという。このように複数の道祖神を祀っている場所は市内に 53 箇所ある。何らかの理由で数箇所の道祖神を 1 箇所に集めたり、古い道祖神が破損したので再建したと考えられる。

また、右側のもの (No. 279) は、鳥居を彫刻し、その下に双体像を刻んである。鳥居を刻む道祖神は市内ではここだけだが、長野県松本市や安曇野市などに見られる。

④辰野北の道祖神 (No.280/双体・合掌/ベンガラ痕が残る)

この道祖神にはベンガラが塗られた痕が残っている。ベンガラは、酸化鉄を主成分とする顔料で、赤色漆や土器の彩色などに使用された。市内にはベンガラ痕のある道祖神が 22 基あり、袴の裾や襟の部分に赤色が残ることが多く、道祖神に彩色していたと考えられる。理由は判然としないが、どんど焼きの際に人々だけが酒を飲んで赤くなっては道祖神に申し訳ないから赤く塗った (貴船町)、赤く塗ることでどんど焼きの火の中に入れたという意味を込めた、などといわれる。

⑤辰野南の道祖神 (No. 281/双体・持物(笏・合掌))

双体像の一方は笏を持ち、一方は合掌する。大岩丸の上にも、同様に一方が笏を持ち一方が合掌する道祖神があり (No. 286)、像容が似ている。

⑥丸の上の道祖神 (右側:No.285/双体・合掌、左側:No.286/双体・持物(笏・合掌))

左側のもの (No. 286) は、⑤辰野南の道祖神 (No. 281) と像容が似ている。

大岩は市内でも道祖神が密集している地域のひとつである。大岩では、かつてどんど焼きの日の夜に 7 箇所の道祖神にお参りする「七とこ参り」が行われていた。七とこ参りをすると無病息災で過ごせるとされ、御洗米を持って自分の家の近所の道祖神をまわったという。市内では他に北山や村山、大中里などでも行われていたという。

⑦丸の東の道祖神 (右側:No.287/双体・合掌/破損甚だし、左側:No.288/双体・合掌/大正 10 年(1921)・片手拝み)

双体道祖神が 2 基並んでいる。右側のもの (No. 287) は、損傷が激しいが合掌像だと考えられる。左側のもの (No. 288) は片手で拝んでいる。片手で拝んでいる双体道祖神は、市内には他に大岩時田東 (No. 177) と大中里青見下 (No. 177、嘉永 6 年) にある。

⑧丸の西の道祖神 (右側:No.289/文字・行書/安政 5 年(1858)、左側:No.290/文字・楷書/昭和 11 年(1936)・火山弾)

文字道祖神が 2 基ある。文字道祖神は市内には 147 基ある。18 世紀半ばに双体道祖神造立のピークがあり、その後徐々に減少していく。それに伴い、文字道祖神の造立が盛んになり、18 世紀後半から 19 世紀初頭にかけてピークを迎える。

左側のもの (No. 290) は火山弾を利用した道祖神である。火山弾を利用した文字道祖神は市内ではここだけだが、杉田丸塚では火山弾そのものを道祖神として祀る。また、栗倉石原には火山弾を使用した甲子が祀られている。これらはすべて丸い形をしており、昔の人々が不思議な丸石に対して畏敬の念をもって祀ったことが考えられる。

⑨丸ヶ谷戸遺跡

丸ヶ谷戸遺跡は富士宮市内でも古くから知られた遺跡のひとつであり、縄文時代の石器や古墳時代の土器・竪穴住居址などが発見されている。平成 3 年 (1991) の調査では、全長 26m の大規模な前方後方型周溝墓が発見された。

大岩地区を含む富士根地域は湧水に恵まれ、古くから集落が営まれてきた。富士根地域は市内でも遺跡が密集している場所のひとつであり、丸ヶ谷戸遺跡のすぐ東には峯石遺跡 (縄文・古墳・奈良)、北には時田遺跡 (縄文・古墳)・宝田遺跡 (縄文・古墳・中世・近世)・辰野遺跡 (縄文・弥生・古墳) などが分布している。



前方後方型周溝墓 (調査当時)

⑩時田東の道祖神 (右側:No.282/双体・合掌/明治 45 年(1912)、左側:No.283/双体・不明)

右側のもの (No. 282) は、大岩丸の東 (No. 288) と同じく片手拝みの道祖神である。顔つきも似ており、同じ石工か同系統の石工の作と思われる。隣には破損が激しい双体像 (No. 283) がある。

(1) 富士宮市文化財保護審議会委員及び富士宮市立郷土資料館運営協議会委員

任 期 平成 25 年 9 月 1 日から平成 27 年 8 月 31 日まで

根拠法令等 富士宮市文化財保護条例第 45 条第 2 項

富士宮市立郷土資料館条例第 6 条第 3 項

	氏 名	分 野
会 長	植松 章八	考古・史跡
副会長	北垣 俊明	天然記念物（地質・鉱物）
委 員	芦澤 幹雄	地域史
委 員	小川 只道	重要文化財管理（大石寺）
委 員	川名 義博	重要文化財管理（北山本門寺）
委 員	高橋 晶子	工芸品（彫刻）
委 員	建部 恭宜	建造物
委 員	中村 徳彦	重要文化財管理（富士山本宮浅間大社）
委 員	松田 香代子	民俗・無形民俗文化財
委 員	山口 裕嗣	重要文化財管理（西山本門寺）
委 員	渡井 正二	民俗・古文書
委 員	渡邊 定元	天然記念物（植物）

(2) 史跡富士山整備委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	坂詰 秀一	立正大学名誉教授・元学長	考古学
副委員長	田中 哲雄	元東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授 姫路市日本城郭研究センター名誉館長	造園学 遺跡整備
委 員	建部 恭宜	静岡県文化財保護審議会会長 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員 富士宮市文化財保護審議会委員	建築学
委 員	谷川 章雄	早稲田大学人間科学学術院長	考古学
委 員	中村 羊一郎	静岡産業大学総合研究所主任研究員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	民俗学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	近世史 民俗学

(3) 名勝及び天然記念物整備委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	土 隆一	静岡大学名誉教授 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	地質学 地下水
副委員長	渡邊 定元	元東京大学教授 森林環境研究所長	生態 環境
委 員	天野 光一	日本大学理工学部教授	景観工学
委 員	池邊 このみ	千葉大学大学院教授	景観論 環境計画
委 員	佐野 貴司	国立科学博物館研究主幹	地質学 岩石・鉱物・鉱床学
委 員	関 文夫	日本大学理工学部教授	土木工学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会会長 富士宮市世界遺産関連学術調査指導員	近世史 民俗学

(4) 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	向坂 鋼二	静岡県考古学会会長	考古学
副委員長	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 富士宮市世界遺産関連学術調査指導員	近世史 民俗学
委 員	北垣 俊明	富士宮市文化財保護審議会副会長 奇石博物館副館長	地質学
委 員	篠原 和大	静岡大学人文社会学部教授	考古学
委 員	深澤 邦治	前大鹿窪区区長	地域代表

※平成 26 年 3 月 31 日現在

※委員は五十音順

資料 富士宮市内指定文化財一覧

富士宮市指定文化財一覧

〈平成26年3月31日現在〉

	種別		文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
1	国	重要文化財・建造物	富士山本宮浅間神社本殿	宮町1-1	富士山本宮浅間大社	明治40. 5. 27
2	〃	〃 ・ 〃	大石寺五重塔	上条2057	大石寺	昭和41. 6. 11
3	〃	重要文化財・絵画	絹本著色富士曼荼羅図	宮町1-1	富士山本宮浅間大社	昭和52. 6. 11
4	〃	重要文化財・工芸品	太刀 銘景光	〃	〃	明治45. 2. 8
5	〃	〃 ・ 〃	脇差 銘信国	〃	〃	〃
6	〃	〃 ・ 〃	太刀 銘吉用	上条2057	大石寺	大正12. 3. 28
7	〃	重要文化財・書跡典籍	紙墨法華経	西山671	西山本門寺	昭和24. 2. 18
8	〃	〃 ・ 〃	紺紙金字法華経	〃	〃	〃
9	〃	〃 ・ 〃	法華證明鈔	〃	〃	昭和27. 7. 19
10	〃	〃 ・ 〃	貞観政要巻第一日蓮筆	北山4965	北山本門寺	〃
11	〃	〃 ・ 〃	藍紙細字金字法華経	〃	〃	昭和29. 3. 20
12	〃	〃 ・ 〃	日蓮自筆遺文	上条2057	大石寺	昭和42. 6. 15
13	〃	重要文化財・古文書	日蓮遷化記録	西山671	西山本門寺	平成 5. 1. 20
14	〃	特別名勝	富士山	富士山略二合目以上	（富士宮市他）	昭和27. 11. 22
15	〃	特別天然記念物	狩宿の下馬ザクラ	狩宿98-1	井出信子（富士宮市）	昭和27. 3. 29
16	〃	〃	湧玉池	宮町1-1	富士山本宮浅間大社	〃
17	〃	天然記念物	万野風穴	山宮字長穴	（富士宮市）	大正11. 3. 8
18	〃	史 跡	千居遺跡	上条1818他	大石寺	昭和50. 6. 26
19	〃	〃	大鹿窪遺跡	大鹿窪426-1他	富士宮市	平成20. 3. 28
20	〃	〃	富士山	富士山八合目以上他	（富士宮市他）	平成23. 2. 7
21	〃	名勝・天然記念物	白糸ノ滝	上井出・原	（富士宮市）	昭和11. 9. 3
1	県	建造物	西山本門寺本堂厨子	西山671	西山本門寺	昭和29. 1. 30
2	〃	〃	富士山本宮浅間大社社殿	宮町1-1	富士山本宮浅間大社	〃
3	〃	〃	大石寺御影堂	上条2057	大石寺	昭和41. 3. 22
4	〃	〃	大石寺三門	〃	〃	〃
5	〃	絵 画	富士浅間曼荼羅図	宮町1-1	富士山本宮浅間大社	昭和56. 10. 23
6	〃	工芸品	青磁蓮弁文大壺	〃	〃	昭和52. 3. 18
7	〃	〃	青磁浮牡丹文香炉	〃	〃	〃
8	〃	〃	人形手青磁大茶碗	〃	〃	〃
9	〃	〃	鉄板札紅糸威五枚胴具足	〃	〃	〃
10	〃	〃	脇差銘出羽大掾藤原国路	大中里396-2	渡辺 英男	昭和37. 6. 15
11	〃	書 跡	万暦本一切経	上条2057	大石寺	昭和52. 3. 18
12	〃	典 籍	重須本曾我物語	北山4965	北山本門寺	昭和53. 10. 20
13	〃	天然記念物	村山浅間神社の大スギ	村山1151	村山浅間神社	昭和31. 5. 24
14	〃	〃	西山本門寺の大ヒイラギ	西山671	西山本門寺	〃
15	〃	〃	北山本門寺のスギ	北山4965	北山本門寺	昭和32. 5. 12
16	〃	〃	大晦日五輪のカヤ	内房5681	望月 旭	昭和40. 3. 19
17	〃	〃	村山浅間神社のイチョウ	村山1151	村山浅間神社	昭和43. 7. 2
18	〃	〃	上条のサクラ	上条923	佐野 一男	〃

	種別		文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
19	県	天然記念物	富士山芝川溶岩の柱状節理	羽鮒1539-2	野村 藤男	昭和59. 3. 23
20	〃	〃	猪之頭のミツバツツジ	猪之頭688	高野 幸孝（故人）	昭和60. 11. 29
21	〃	〃	大晦日のタブノキ	内房5681	望月 旭	昭和62. 3. 20
22	〃	〃	芝川のポットホール	下柚野319地先他	（富士宮市）	平成 7. 3. 20
23	〃	無形民俗文化財	富士宮囃子	宮町他	富士宮囃子保存会	〃
1	市	建造物	妙蓮寺 5 棟	下条688	妙蓮寺	平成23. 5. 24
2	〃	〃	平等寺の三門	東町4-24	平等寺	昭和60. 3. 11
3	〃	〃	井出家高麗門及び長屋	狩宿91-1	富士宮市	平成 7. 3. 16
4	〃	〃	上稲子八幡宮の厨子	上稲子1632	八幡宮	平成25. 6. 20
5	〃	〃	龍興寺の厨子	内房3716	龍興寺	〃
6	〃	〃	芭蕉天神宮本殿	内房5820	芭蕉天神宮	〃
7	〃	絵 画	天象の図	村山1151	村山浅間神社	昭和55. 1. 11
8	〃	〃	太郎坊権現の図	〃	〃	〃
9	〃	〃	阿字曼荼羅	〃	〃	〃
10	〃	〃	伝末代上人画像	〃	〃	〃
11	〃	工芸品	伝源義助大薙刀	宮町1-1	富士山本宮浅間大社	昭和40. 5. 10
12	〃	〃	弥陀観音勢至の軸 （阿弥陀三尊雲越之来迎図）	上柚野197-1	延命寺	平成24. 5. 24
13	〃	彫 刻	大日如来坐像（胎蔵界）	村山1151	村山浅間神社	昭和57. 8. 23
14	〃	〃	大日如来坐像（金剛界）	〃	〃	〃
15	〃	〃	大日如来坐像（胎蔵界）	〃	〃	〃
16	〃	〃	役行者倚像	〃	〃	〃
17	〃	〃	不動尊像	〃	〃	〃
18	〃	〃	隨身像	宮町1-1	富士山本宮浅間大社	平成 5. 5. 25
19	〃	書 跡	後陽成天皇宸翰	〃	〃	昭和40. 5. 10
20	〃	典 籍	外国語（英・蘭）辞書類一括	中央町11-2	中西 信子	昭和63. 4. 15
21	〃	古文書	袖日記	大宮町7-16	横関 及彦	昭和60. 3. 11
22	〃	考古資料	三連甕形土器	黒田1373-13	若林 和司	昭和55. 1. 11
23	〃	〃	安養寺の土偶	杉田489	安養寺	昭和57. 8. 23
24	〃	〃	駿州富士郡二股村石経塚	栗倉1050-1	小林 充	昭和63. 4. 15
25	〃	天然記念物	大宮縄状溶岩	元城町32	富士宮市	昭和44. 4. 1
26	〃	〃	フジキクザクラ	上条2057	大石寺	昭和57. 8. 23
27	〃	〃	中央町のカヤ	中央町11-2	中西 信子	〃
28	〃	史 跡	大室古墳	小泉1467-1	（上小泉八幡宮）	昭和60. 3. 11
29	〃	〃	中野梅市建立の句碑	黒田36	本光寺	〃
30	〃	〃	虚空蔵社古墳	西小泉町59-4. 5	鈴木 英光	平成 5. 5. 25
31	〃	無形民俗文化財	火伏念仏	内野	火伏念仏保存会	平成11. 1. 26
32	〃	〃	富士山本宮浅間大社流鏑馬	宮町	浅間大社流鏑馬保存会	平成18. 9. 8

富士宮市歴史年表

時代	西暦	和暦	ことがら
先 土 器	B・C 数万年		・富士南麓地方に旧石器(先土器)文化人現われる。打製石器の出現。
	B・C 2 万年		・小塚遺跡（西山）の石器。
縄 文	B・C 1 万数千年		・縄文文化の成立。土器・磨製石器・弓矢。 ・（草創期）定住の開始 ・狩猟・植物採集文化の成立 大鹿窪遺跡の集落。 ・上石敷遺跡（小泉）・南部谷戸遺跡（黒田）の「有舌尖頭器」。
	B・C 5～8 千年		・（早前期）若宮遺跡（小泉）の集落。
	B・C 1～3 千年		・（中後期）遺跡の増大。 千居遺跡（上条）・滝戸遺跡（黒田）の集落と配石遺構。 杉田中村遺跡の土偶（安養寺所蔵）。
	B・C 1 千年～ B・C 400 年		・（晩期）
弥 生	B・C 400 年		・稲作・金属器文化の成立。
	B・C 100～		・（中期）渋沢遺跡（淀師）の磨製石庖丁と再葬墓。
	A・D 150		・（後期）泉遺跡（黒田）の環濠集落。 滝戸遺跡（黒田）の方形周溝墓。
古 墳	200～350		・古墳文化の成立。 丸ヶ谷戸遺跡（大岩）の前方後方形周溝墓。 南部谷戸遺跡（黒田）の方形周溝墓。 ・（前期）月の輪平遺跡（星山）・泉遺跡・神祖遺跡（小泉）・南部谷戸遺跡（黒田）の集落と方形周溝墓。
	350～500		・（中期）
	500～700		・（後期）群集墳の出現。 大室古墳（大岩）・別所古墳（安居山）。 このころ「珠流河（するが）」国造置かれる。
	644	皇極 3	・富士川の近くで大生部多が「虫」を常世神として祀り人々をまどわしたので、秦河勝にうたれる。
	646	大化 2	・それまでの数か国を合わせて珠流河・遠江の2国とする。 ・このころ富士郡家が大宮に置かれたといわれる。
飛鳥 奈良	781	天応元	・上石敷遺跡（小泉）の集落 ・富士山が噴火し、木の葉が全部しおれる。
平 安	800	延暦 19	・富士山の火山灰が降り、山・川・草木すべて赤く変色する。「足柄路」が火山灰で埋まり、「箱根路」を開く。
	853	仁寿 3	・浅間神が名神に列せられ、同年従三位、859 年正三位、907 年従二位、927 年「延喜式」には「名神大」となる。

平安	864	貞観 6	・富士山が噴火し、せの海が精進湖と西湖に分かれる。
	902	延喜 2	・群盗のため富士郡の官舎が焼かれたとの報告がある。
	1017	寛仁元	・浅間神社が三島神社とともに「一代一度奉幣」の待遇となる。
	1114	永久 2	・このころ甲斐国の運上物を駿河国の住人が盗みとる。
	1149	久安 5	・富士上人末代が富士山頂に大日寺を建てたといわれる。
	1180	治承 4	・甲斐源氏が平家の駿河目代橘遠茂と朝霧高原で戦い、これをやぶる。 (富士川合戦の前哨戦)
鎌倉	1193	建久 4	・源頼朝が「富士の巻狩」を行う。曾我兄弟が父の仇工藤祐経をうつ。(5・28)
	1203	建仁 3	・源頼家が「富士の巻狩」を行う。仁田四郎忠常が人穴を探検する。
	1223	貞応 2	・北条義時が浅間神社を造替する。
	1259	正嘉 3	・村山浅間神社に大日如来像が奉納される。
	1274	文永 11	・日蓮が鎌倉を離れ身延へ入る。途中大宮に泊る。(5・15)
	1279	弘安 2	・熱原神四郎ら殺される。(熱原法難)
	1290	正応 3	・上野の地頭南条時光が日興とともに、大石寺を建立する。
	1298	永仁 6	・北山の地頭石川能忠(妙源)が日興とともに本門寺を建立する。
	1333	元弘 3	・上野の南条宗家、北条氏と運命をともにする。 ・後醍醐天皇が浅間神社に下島郷(静岡市)の地頭職を寄進する。
南北朝 室町	1334	建武元	・後醍醐天皇が浅間神社に富士郡上方荘(富士宮市)を寄進する。
	1335	建武 2	・足利尊氏が浅間神社に遠江石野弥六兵衛の所領を寄進する。 弟の直義も遠江富士不入斗の所領を寄進する。
	1337	建武 4 (延元 2)	・浅間神社に下島郷の地頭職が寄進される。
	1344	康永 3 (興国 5)	・大内安浄が日代とともに西山本門寺を建立する。
	1351	観応 2 (正平 6)	・上杉憲将が大宮司富士氏に駿河から甲斐への通路の警固を依頼する。
	1362	康安 4 (正平 17)	・今川範氏が大宮司富士氏に静岡市の勾金・栗原両郷へ乱入狼藉を停止する。
	1400	応永 7	・今川泰範が浅間神社に遠江の富士不入斗の所領などを再寄進する。
	1409	応永 16	・根原郷の関所を富士長永が管理する。
	1433	永享 5	・今川氏の相続争いで、狩野・富士・興津氏ら反範忠の国人が一揆をおこす。
	1462	寛正 3	・大宮司富士忠時が能登守に任ぜられる。
	1465	寛正 6	・富士祐本父子の対立を幕府が調停する。
	1497	明応 6	・大宮司富士親時が「富士浅間宮物忌令」を出す。

室 戦 国 町	1532	天文元	・富士宮若が今川氏輝より星山代官職を安堵される。
	1537	6	・富士宮若が小泉上坊にたてこもり、手柄をたてたので今川義元から感謝状を与えられる。
	1539	8	・今川義元が井出駒若に上野の関銭取立てなどの知行をあてがう。
	1542	11	・今川義元が伊豆への透山伏について、村山の大内按察使坊に命じる。
	1543	12	・今川義元が井出右京亮に道地、かり宿、辻坂、窪地を安堵する。
	1546	15	・今川義元が、この年と 1550 年の 2 度にわたって富士上方の検地を行う。
	1551	20	・今川義元が富士（麓）金山への荷物運搬を保障する。
	1554	23	・北山本門寺の日義が『曾我物語』を書写する。（本門寺）
	1555	24	・今川義元が大石寺門前で商売するものに諸役を免除し、新市を禁ずる。 ・今川義元が村山山中の掟を定める。
	1561	永禄 4	・今川氏真が大宮城、興国寺城の築城に従っていた北山などの富士山造 40 人に朱印状を与え、根原・厚原の関所の関銭を免除し通行を保護する。
	1562	5	・今川氏真が精進川に文書を出し、税や諸役を免除する。
	1566	9	・今川氏真が大宮六度市に「楽市令」を発し、また神田橋の関所の廃止を命ずる。
	1568	11	・武田軍、富士信忠の守る大宮城を攻撃する。（12・9）
	1569	12	・武田軍、大宮城を攻める。（2・1） ・武田軍またも大宮城を攻めるが、富士氏は 20 日間あまりもちこたえる。（6・23～）
	1571	元亀 2	・武田信玄が小林七郎左衛門尉に根原郷と根原関をあてがう。 ・富士氏の申し出により氏真が富士氏に感状を与えて北条・今川陣営からの離脱を認める。（10・26）
	1572	3	・武田氏が富士氏に甲斐国への通行の安全を保障する。（4・2） ・武田氏が北山の山作衆木山作衆に築城用材の奉公を求める。
安 土 桃 山	1574	2	・武田氏が北部の村々の 49 人に江尻城・興国寺城や本栖・大宮の陣屋等の用材の奉公を命ずる。
	1576	4	・武田氏が「伝馬掟」を根原郷などに出す。
	1577	5	・穴山梅雪が麓金山の坑道などの相続について文書を出す。
	1578	6	・武田氏による浅間神社の造営が完成する。
	1580	8	・武田氏が大宮西町新市の掟を出す。（1・6・11・16・21・26 日の六度市）
	1582	10	・織田信長が武田氏をほろぼす。徳川家康は駿河口を担当する。 ・浅間神社が焼失する。 ・信長は家康の案内で中道往還を凱旋し大宮に泊まる。 ・家康の代官井出志摩守正次が「北山用水」を竣工する。
	1583	11	・徳川氏が武田勢に焼かれた上井出宿を再興する。 ・井出正次が麓金山衆に普請役を免除する。 ・徳川氏が人穴に田畑とも不入を許可し、居住するよう命ずる。 ・徳川氏が根原郷の諸役を免ずる。

安土 桃山	戦国	1589	元亀 17	・家康が三河・遠江・駿河・甲斐・信濃の 5 か国の検地を行い、七か条定書を出す。(5 か国総検)
		1590	18	・家康は豊臣秀吉の命により関東に転封し、かわって秀吉の直臣中村一氏が駿河の国を支配する。 ・秀吉が安養寺、先照寺や浅間神社などの寺社領を安堵する。
		1599	慶長 4	・中村一氏は「横田村詮法度」を駿河国の各郷村にくばり検地をすすめる。
		1602	7	・麓金山の採掘がさかんとなり掘間 16 口をかぞえる。
江戸		1604	9	・徳川家康が大宮の浅間神社の本殿を再興する。
		1607	12	・徳川家康は角倉了以に「富士川の舟運」を開かせる。
		1608	13	・釜口峡に吊り橋が架かる。
		1610	15	・佐折村の遠藤主水が「芝川のり」を徳川家康に献上する。「芝川のり」の将軍家への献上は幕末まで続く。
		1624	寛永元	・この年、駿河国は徳川忠長（家光の弟）領となる。
		1641	18	・徳川家光が、大宮の浅間神社に 867 石余を寄進する。 ・大宮町の代官領が、神田・仲宿と連雀・青柳町に分かれて、名主も一名ずつ置かれる。
		1669	寛文 9	・星山村と黒田村の明星山入会争論で死者が出る。
		1704	宝永元	・青木村他 6 ヶ村と山宮村の入会争論が解決する。
		1707	4	・「宝永の噴火」。富士山中腹に宝永山ができる。(11・23) ・「宝永の大地震」で白鳥山が崩壊し、富士川が 3 日間にわたって堰き止められた。内房村の橋上で 8 名、長貫で 22 名の犠牲者が出たと伝えられる。
		1749	寛延 2	・大石寺の五重塔が完成し落成式を行う。(6・12)
		1753	宝暦 3	・このころ、精進川村で初めて「たばこ」の栽培が始まる。
		1766	明和 3	・駿河代官、会田伊佐衛門が大宮町民の窮乏を救うために、毎年 6 月と 12 月の 28 日に市を開くことを許す。
		1771	8	・大宮の浅間神社領の田地かんがいのため、淀師から水を引いて「西新堀用水」が完成する。
		1779	安永 8	・富士山八合目以上は大宮の浅間神社の支配とする幕府の判決がおりる。
		1781	天明元	・原村の渡辺兵左衛門が「みつまた」を原料として和紙の製造を始める。後に「駿河半紙」として江戸市中でよろこばれるようになる。
		1785	5	・大宮の浅間神社の社殿修理費を集めるために、江戸で「富くじ」の発売を幕府から許されるが、後にその許可を取り消される。
		1793	寛政 5	・大宮の浅間神社の富くじ発売に代えて、幕府は白銀 300 枚を与える。
		1800	12	・富士郡北部 43 か町村は防犯のため、町村を 6 組に分け、各組ごとに親村を定め交代制で防犯にあたる。これは明治まで続く。
		1805	文化 2	・雪花亭梅市が、黒田村の本光寺境内に七十翁やいつ（加藤野逸）の句碑「手をあはす教や今もかしハ餅」を建てる。

江戸	1814	文化 11	・このころ、星山村の名主、深沢安兵衛が「道しるべ」を各地に建て、旅人の便宜をはかる。
	1827	文政 10	・大宮の浅間神社修理のため、「富くじ興業」が幕府から許可され、これから 7 年間江戸で毎月 3000 枚を発売する。 ・このころ江戸で「富士講」が隆盛する。
	1834	天保 5	・野中村の深沢与五兵衛らが、潤井川から水を引いて「野中用水」が完成する。 ・神田川が今の身延線付近で西へ曲り、西町で南流し潤井川に注いでいたが、たびたび洪水がおきるので、流路をまっすぐ南へ開削して現在の川筋に変える。
	1837	8	・不作つづきのため、北山、山宮、万野、宮原などの村々の農民ら 67 人が鉄砲や松明をふりかざして、強訴のため大宮町へ押しかける。首謀者ら 6 人は捕えられて村落追放の処分を受ける。
	1848	嘉永元	・大堀用水（明治にいたり安居山用水の水源となる）が開かれる。
	1854	7 (安政元)	・安政の大地震。（11・4）翌年 1 月 28 日まで断続的に地震が続く。
	1855	2	・青木村・青木寄合村上条・下条・馬見塚との間に水争いがおきる。やがて話し合いで現在の「水久保貯水池」のもとができる。
	1856	3	・このころ大宮町の佐野与一（角田桜岳）が地球儀の作成にかかわる。
	1858	5	・大久保用水が開かれる。
	1860	万延元	・イギリス公使オールコックが外国人として初めて大宮・村山口から富士登山をする。
	1862	文久 2	・杉田安養寺の恩智養宗和尚が独力で「杉田用水」を開く。
	1863	3	・天領、旗本領で農兵のとりたてが行われるようになり、星山村でも農兵が組織され鉄砲や剣術の訓練を始める。
	1866	慶応 2	・小泉村の中野勘兵衛らが「桜田用水」を完成させる。
	1867	3	・「ええじゃないか」の騒乱が流行する。大宮町神田の紺屋にも「御札降り」があり、付近の村々にも約 20 日間にわたって「ええじゃないか」の騒ぎがつづく。
明治	1868	明治元	・大宮の浅間神社の富士重本（亦八郎）が「駿州赤心隊」を組織して江戸に従軍する。
	1869	2	・万野原新田に旧幕臣約 250 戸が帰農入植する。
	1870	3	・大宮の浅間神社大宮司の邸、出火（放火）で焼失する。
	1873	6	・大宮町仲宿に大宮町羅卒屯所（後の富士宮警察署）が、青柳に大宮郵便役所（後の富士宮郵便局）が置かれる。
	1874	7	・富士山に廃仏毀釈運動がおこり、山頂の大日堂を取り除き浅間大神を祀る。また村山村興法寺を浅間神社と大日堂に改める。 ・このころ寺院などの建物をかりて新曦舎（現富丘小）、岳麓洞（現大宮小）など、今の小学校の前身が次々とつくられる。
	1875	8	・大宮町初音町から出火し、330 戸余りが焼失。また、新立町から出火、250 戸余りを焼失する。

明治	1889	明治 22	・町村制が施行されて富士郡下 128 町村が 2 町 20 か村に統合される。 ・大宮町・大宮西町・万野原新田村・阿幸地村・源道寺村・黒田村・星山村・貫戸村・山本村・安居山村・沼久保村の 11 か町村を併合して大宮町とする。(3・1) ・大宮町・富丘村・富士根村・北山村・上井出村・白糸村・上野村・芝富村・内房村・柚野村が成立する。
	1890	23	・富士馬車鉄道会社が、吉原町から大宮町まで約 13 km で鉄道馬車の運行を始める。
	1908	41	・大宮町に富士軌道株式会社が創立され、連雀町から、北山を経て上井出まで馬車軌道が開通する。 (後に人穴東の小俣沢まで延長された。昭和 13 年まで貨客運送をする。)
大正	1913	大正 2	・富士身延鉄道の富士駅－大宮町駅間 10.3 km が開通する。
	1914	3	・『静岡県富士郡誌』が発刊される。大宮町の人口は、13144 人。
	1915	4	・富士身延鉄道の大宮駅－芝川駅間が開通する。
	1918	7	・歩兵一個中隊が釜口橋を渡り橋が落ち、7 名が犠牲となる。
	1920	9	・第 1 回国勢調査が行われる。大宮町の世帯数 3,549・人口 17,713 人
昭和	1927	昭和 2	・富士身延鉄道が電化され、大宮西町駅(現・西富士宮駅)が開設される。
	1932	7	・「大宮町大火」。栄町から出火し、神田川以東の繁華街を焼き尽くし、約 1,200 戸を全焼する。
	1934	9	・大宮町役場が元城町に竣工する。
	1942	17	・上井出村に陸軍少年戦車兵学校が開校し、同村の北部(現朝霧高原)一帯が演習地となり、昭和 18 年に人穴地区や広見・見返などの約 90 世帯が上井出村芝山に集団移住させられる。 ・大宮町と富丘村が合併し富士宮市(全国で 192 番目の市)が誕生する。(6・1)
	1945	20	・終戦
	1946	21	・旧陸軍少年戦車兵学校演習地を中心に西富士開拓事業が始まる。
	1951	26	・逢来橋が架橋される。釜口橋が鉄橋になる。
	1955	30	・富士宮市と富士根村が合併する。(4・1) (面積 88.97 km²、世帯数 10,658・人口 57307 人)
	1957	32	・富原村と柚野村が合併して芝川町となる。
	1958	33	・富士宮市に、上野・北山・上井出・白糸の 4 か村が合併する。(4・1) (面積 314.22 km²、世帯数 14868・人口 77761 人)
	1991	平成 3	・新市庁舎が弓沢町 150 番地に完成する。
	2008	20	・大鹿窪遺跡が国の史跡に指定される。
	2010	22	・富士宮市と芝川町が合併し、富士宮市となる。(3・23)
	2011	23	・富士山が国の史跡に指定される。
	2013	25	・富士山が世界遺産に登録される。

富士宮市文化財年報 第4号

平成27年3月20日

編集 富士宮市教育委員会

発行 富士宮市教育委員会

静岡県富士宮市弓沢町150番地

電話 (0544) 22-1111(代)

印刷 フジ印刷有限公司